

I

1. 構文を正しく把握したうえで文意を理解し、細部にわたって適切な和訳ができているかが問われる。内容が抽象的であるため、それを理解して対応する日本語の文に訳することは難しく、英文の深い解釈力が求められる。構文としては that 以下の説がいささか長いが、“or passions ... called”の部分が前後とどのようにつながっているか見極めることが重要なポイントである。“at odds ... reason”の部分はかなり抽象度が高いため、正しい理解に基づいて分かりやすい日本語に訳する必要があるが、何を述べているのか分からない答案が少なくなかった。
2. 本問では emotions が人間の生存に不可欠である理由について本文に即して説明できているかを評価する。本文で挙げられている四つの理由（人間関係や社会集団の維持、関係内の優先順位の判断、自分と環境との関係の状態の把握、神経系など諸機能の進化への関与）を過不足なく捉え、それらを並列的な理由として示していることが求められる。特に、「自分と環境との関係」を正しく理解しているか、および最後の点が神経系に限らず複数の機能に関わることを理解できているかを重視する。また、これらが生存に不可欠である理由としてまとめられていることも評価する。
3. 訳をすべき二文は下線部の後にあるように(“how interconnected emotions are...”)、emotions と認知的・行動的プロセスが相互に影響を与えあうことを具体的に説明している文章である。語彙の点からも適切な日本語で表現するのは難しい問題であったが、解答で目立ったのは構文の理解の誤りである。一文目の”to perceive...,” “remember...,” “act to...”がすべて“ability”にかかっていることを理解できていない解答が非常に多く見られ、また二文目についてもどこが文全体の述語なのかが理解できていない解答が散見された。
4. 下線部の具体的な内容を本文に即して説明することを求める問題である。解答は下線部の後から段落の終わりまでの内容をまとめるものだが、“help+人+動詞の原形”の構文理解、“the right things”を目的語とする他動詞“attract”の意味・用法、“the tools”を先行詞とする関係節の文法的把握といった点が不十分であるため、適切な解答に至っていない答案が散見された。
5. 下線部の理論において、感情がどのように生じるとされているのかを、次段落の具体例を含めて説明することを求める問題である。感情を生じさせる二要因それぞれの、具体例での対応箇所を把握できているかがポイントであった。段落全体で一連の仮定を

述べていることを理解できておらず、“you and your friend”の例での二要因間の作用を説明できていない解答が多かった。“nature”を「自然」と訳出する例がみられたが、文脈から「性質」と解釈すべきである。語形の確認が不十分なために誤読が生じているもの（特に“sweat”を sweet、“current”を correct と誤読）、日本語の「てにをは」の混乱、漢字の間違いも散見された。

II.

設問を正しく理解し、自分の経験や見聞きしたことなどを顧みながら自分自身で考える思考力に基づいて、豊かな英語表現力を示していることを重視して評価した。その際、標準的な英語の文法を用いて書かれているか（文の構造、動詞の時制、数の一致、定冠詞と不定冠詞の使い分けなどが主なポイントである）、適切な語彙やイディオムを用いて表現しているか、文章構成が適切であるか、スペリングなどの誤りがないか、という点も評価している。